

学校関係者評価委員会

本校が自らの教育活動その他の学校運営について組織的・継続的に改善すること、信頼される開かれた学校づくりを進めること、教育の質を保証し、その向上を図ることを目的に学校関係者の皆様から学校への意見や評価をいただきます。

学校関係者評価委員会委員（敬称略 あいうえお順）

青木 保子 元副校長（H23年度～H26年度）
勝山 智男 国立沼津高等専門学校 非常勤講師
塩田 美佐代 医）真養会 きせがわ病院 看護総括局長
渡邊 淳子 沼津市立病院 看護部長

実施日 実施場所

令和5年6月12日（月） 沼津市立看護専門学校会議室

学校の自己評価に関する評価結果

カテゴリー	自己評価	委員評価
I 学校経営	3.21	単年度目標が、教職員の学校運営に関する意識の向上に繋がっている。 学校の強みを再確認した。
II 教育課程・教育活動	3.66	積極的な ICT 導入には教員研修が重要。 教育活動の改善の努力・評価への公平性の努力が認められる。
3 入学・卒業対策	3.77	入学志願者確保に向けての独自性のある広報活動を今後も継続する。 入学倍率 3 倍を評価する。 少人数制教育という特徴を生かしている。 卒業生への支援の手厚さを感じた。
IV 学生への支援	3.39	学生の伸びしろは、大きい。学生支援を継続し、学生の成長に繋がっていくことを期待する。
V 管理運営・財政	3.54	ハラスメント等への取り組みを評価する。今後も配慮を継続する。

VI 施設・設備	3.77	図書室・学習室など、学生が自由に利用できるスペースが十分に確保されている。 学生を中心にとらえた設備、今後の整備と活用に期待したい。
VII 教員の育成	3.26	多くの努力が認められるが、更なる努力を期待する。教員の臨床研修を実現すること。
VIII 広報・地域活動	3.35	学生の地域活動が楽しく継続するよう今後も支援をしていく。 学校のPRを拡大していく。

改善策等の提言

- ・支援を要する学生（コロナ禍で他人との関わり合いが少なかった・他人との関係構築がうまくできないなど）が増えていると思うが、全学生に目が行き届くという小人数制の利点をいかしてきめ細かい指導を継続してほしい。
- ・（学生時代をコロナ禍で過ごした）新人ナースは、臨地実習の経験が乏しいためか、臨床現場でギャップに悩むことが多く、メンタルの弱さも目立ちます。コロナ世代の学生や看護師にどのようにかかわっていけば良いのか共に考えていくことが必要です。
- ・看護教員の臨床知識の更新は、実習や演習指導が具体化に繋がるので、教員は忙しいでしょうが、臨床の現場を知るための研修計画を立て、臨床研修を実現した方が良い。
- ・学校の強みや特徴がたくさんある。しっかり捉えてPRする。特にホームページを活用。
- ・自己評価の数値が昨年度より上がっている。コロナ禍でも教職員が頑張っているということを高く評価したい。
- ・実習のサポート補充などのマンパワーの充実が重要。人材確保に努め、今日提案していただいたことを実現してほしい。